

# SNSの利用

広島県広島市立安佐南中学校 3年 佐々木 穂香



私がSNSを使用するとき、人を貶すような発言や誹謗中傷を見かけることがある。しかし、それらが普段口にされているところを見かけることは少ない。この違いはおそらく、話す相手が見える状態にあるかどうかだ。SNS上では相手が見えないから、つい発言が過激になってしまい、日頃の鬱憤を晴らすように言葉を出してしまう。

思い返してみれば私も、実際に話すときより、メールなどでやり取りをするときの方が口調が強くなってしまう。自分にとってはその範ちゅうかもしれないが、それが相手を傷付けてしまう可能性は充分にある。相手の顔が見えないからこそ、より慎重に言葉を選び、伝える必要があるのだ。

しかし、相手の顔が見えないという状況をいいように思い、好き勝手に振る舞っている人を見かけることがある。ネット上の交流の場で、誰かの発言に便乗して悪口を言ったり、一方的に罵ったりなど、様々だ。私も、イラストの投稿をしている友人が批判のコメントを受けたと相談してきたことがある。その人はとても悩んでいたし、心ない言葉によって傷付いていた。面と向かって悪口を言われるのはもちろん傷付くが、それはSNSを通してでも同じだ。だからこそ私たちには、受け取る側のことを考えて発信するという責任がある。

SNSは、使い方さえ間違えなければ便利で、自分の世界を広げてくれる素晴らしいツールになる。実際に私は、メールで他県にいる友人ともやり取りができるし、様々な人と関わることで、趣味の幅を広げたり新たな視点を得ることができた。これからSNSは、更に私たちの生活の中で欠かせないものになっていく。だから、尚のこと使い方を誤らないようにすることが大切だ。

SNSとうまく付き合っていくために意識すべきことは、二つある。

一つ目は、責任感をもつことだ。発言する責任、拡散する責任、受け取る責任など、自分の言動全てに責任が伴うことを理解しなければならない。自分の発言によって誰か傷付く人はいないか、本当に広めてもいい根拠のある情報なのか。そして、受け取るのは人を貶すような意見や情報ではないかと、常に考えておく必要があると思う。

二つ目は、接し方を変えないことだ。例えば直接話すときと、SNSを通じて話すとき、どちらも相手を気づかうことを欠いてはいけない。SNSではその手軽さや顔が見えないという点から、普段の会話の中でしている相手の気持ちを考えるという動作を忘れがちだ。しかし、直接言われていないからといって、誹謗中傷をされても傷付かないわけではない。だからこそ、会話の中で

きている気づかいを、SNS上でも同じようにしなければならない。伝え方が違うとはいえ、人と人のコミュニケーションなのだから、相手のことを第一に考えて交流すべきだ。その二つの接し方に差をつくってはいけないと思う。

最近、ニュースでSNSが絡んだ事件が報道されたり、マナーを学ぶためのセミナーが開催されたりと、世間のSNSの使い方に対する関心が高まっている。現に私も、新聞などでそれに関する記事があれば、読むことが多い。そんな今だからこそ、自分のSNSの接し方、使い方について見直し、正しく対応していくべきだ。

これから、様々な場面でSNSというツールを使っていくと思う。使い方によっては人を傷付けてしまう危険なものだけど、私はマナーを守って自分や他人のためになるよう使いたい。直接話すときも、SNSを通じて話すときも、人との接し方が変わることはない。どちらだとしても相手のことをよく考え、気づかいや思いやりをもって行動することを大切にしていきたい。